

社会医療法人北斗会 医療憲章

社会医療法人北斗会 医療憲章

- 旧医療法人北斗会 医療憲章
- さらに旧 さわ病院医療憲章
- 1991年に制定
 - 私が医師になってから気付いたことを「診療上訓」として自分のために貯めてきたものをまとめて「こころ病む人を見る人のための10ヶ条」
- 医療憲章は先代がつけてくれたもの

こころ病む人を見る人のための10ヶ条 (社会医療法人北斗会医療憲章)

- 1) その人はこころ病む人である前に人であると思うこと
- 2) どのような症状でもそれはその人のせいではなく病のためと思うこと
- 3) その人には病む時の症状の裏に素晴らしい人間性が隠れていると思うこと
- 4) その人には病む前には誇りある人生があったのでありそれに心から敬意を表し傷つけぬよう心を配ること
- 5) その人に言葉を掛ける時、自分が掛けられたらと常に考えてすること
- 6) 治療、世話をするときには常に受ける側の気持ちに立ってすること
- 7) 慣れは仕事を正確、迅速にするのに良いが、馴れに陥らないように心を配ること
- 8) 月に1度仕事に上で感激を持てなかったら自分の仕事に流されていると思うこと
- 9) 病気の世話をすることに努力することと病気を治すことに努力することの両方に常に心を配ること
- 10) 病む人のみでなくその人を取り巻く人々の背負う重荷にも心を配ること

さわ病院の基本理念

- 名札の8スローガン
- FOR:
- Mental Health (Monetary Stability)
- Normalization
- Organization
- Peace of Mind → **Patient First** この具体的なものが医療憲章
- Quality of Life
- Rehabilitation
- Scientific Approach
- Team Therapy

1) その人はこころ病む人である前に 人であると思うこと

- 自分と同じ人
- 同じ人がたまたま心の病を持ったということ
- 話しているのは、歩いているのは、患者としてではなく同じ人として
- 病院によって、平気で呼び捨てで呼び、敬称なしで書くところがあるが、「様」でなくても「さん」で呼び、「氏」か「様」で書く
- 隠れ身から破れ身へ

2) どのような症状でもそれはその人のせいではなく病のためと思うこと

- いろいろの反応、困った言動があっても、それは脳という臓器から発せられたもの
- 他の患者、近隣に大きな迷惑を掛ければ立ち入り禁止などにもするが、基本は病がさせていると考えること
- それによって治療者個人の感情は掻き立てられにくくなる
- 「先生、あの患者何とかして下さい」はなくなる

3) その人には病む時の症状の裏に素晴らしい人間性が隠れていると思うこと

- 2)を自分に徹底させるときにはこの気持ちがあるとやりやすい
- これは極論言うと性善説で、祈りに似たものだが、こう思い続けることで治療やケアをする側は気持ちが前向きで明るくなる
- てんかん性格をもつ人、躁病に罹患している人、BPSDを示す人、BPDなどパーソナリティ障害を持つ人

4) その人には病む前には誇りある人生があったのでありそれに心から敬意を表し傷つけぬよう心を配ること

- 特に高齢者、さらに特に認知症患者さんに対しての構え方
- 物忘れはあっても、プライドのある方と考えること
- 認知症初期は不安も強く、どう思われているかに敏感で、対応がふさわしくないと患者さんは反応する
- このような患者さんに敬意を払えないならそれは治療者の驕りでしかない
- あるいは治療者自身の心の幅の狭さの露呈、不安の露呈かもしれない
- 「おじいちゃん」「○○ちゃん」は余程気をつけなければ使ってはならない言葉である

5) その人に言葉を掛ける時、自分が掛けられたらと常に考えてすること

- わが身をつねって人の痛さを知れとはよく言われるが同じこと
- 自分が目の前の患者さんやご家族と同じ状況であればと考えられれば難しくない
- 7)に通じるが、慣れるととかく忘れやすい
- これは言葉だけに限らない。行動、しぐさ、療養環境もそうである

6) 治療、世話をするときには常に 受ける側の気持ちに立ってすること

- 5)と通じるが、特に医療面での配慮のこと
- 7)に通じる。自分にとっては毎日のことでも、相手の立場で声掛けすること
 - 患者さんの心の中から見ただけの共感、“暖かいクールさ”
 - 患者さんの不安
 - 場所、手続きの不案内に始まり
 - 医療自身では、初診、初回入院、初めての処置
 - May I help you? の精神、実践

7) 慣れは仕事を正確、迅速にするのに良いが、馴れに陥らないように心を配ること

- これだけは日看協からのパクリ
- 慣れないと無駄な緊張もあるが、毎日のルーチンだと緊張がほぐれるばかりでなく、適切な緊張もなく間違いが起き易くなる
- 特に自信から手抜きが平気になり、誤薬を招く温床となる
- 慣れで出てくる丁寧な言葉ほど冷たいものはない
- それでもなんとか目を見て、その人に向けた笑顔で話せれば、「慣れ」から「個別性」に転じられる

8) 月に1度仕事に上で感激を持ってなかったら自分の仕事に流されていると思うこと

- 最初は週1回としようとしたが、それでは無理という人もいるかもしれないので1ヶ月にした
- 探せば毎日でもある
- ちょっとした声掛け、ちょっとした相手への思いやりも喜ばれれば感激
- また感激がもてるような医療・ケアをしよう
- 気をつけなければならないが、時には独善的になって、嫌われても「いつか分かってくれる」と祈る気持ちで接し、そのうち分かってくれるだろうと考えるのもよい。それがいつか分かってくれた時の感激は大きい

9) 病気の世話をすることに努力することと病気を治すことに努力することの両方に常に心を配ること

- もちろんそばにいて話を聞くだけでも治療的で役に立つが、患者さんは常にそばにいて、いつまでも話がしたいもの
- 治療者・ケアギバーには24時間しか与えられていない
- その24時間をどのように振り分けるか、就労時間といっても、患者さんの苦しみを取るために寄り添うか、苦しみを減らせる手立てがあるか調べるのに時間を使うか悩みなさいということ

10) 病む人のみでなくその人を取り巻く人々の背負う重荷にも心を配ること

- 精神障害を持った人の家族は、経済的、対応する時間、将来への心配のみでなく、周囲との関係でも悩む
- いろいろの不満や怒りも表されるが、その背景にある気持ちに思いを致すこと
- また近隣の方は、「知らないことからの不安」が強いので、時間をかけて、しかも迅速に対応すること

北斗会のシンボル

- ロータス・クラブ
- ジャンデールの像



- M to T
- 医療憲章

「カレーの市民」は、百年戦争時の1347年、イギリス海峡におけるフランス側の重要な港カレーが、一年以上にわたってイギリス軍に包囲されていた際の出来事に基づいて作られている。

ジャンデールは市民の権利を守るため、王の要求に従って裸足で首に縄を巻き市の鍵を持って行進した

今後皆さんに期待すること

- この10ヶ条は私が19年間の経験から作ったもの
- だから絶対的なものではない
- 皆さんが日々の臨床経験で、自らの3ヶ条、5ヶ条、7ヶ条、10ヶ条などを作られることを期待する